

谷口 純一 氏の学位論文審査の要旨

論文題目

臨床医学教育における統合的トレーニングプログラムの有用性と課題
—シミュレーション医学教育を応用した採血トレーニングプログラム開発と実践を通して—
Effectiveness and problem of integrated training program in the clinical medical education
—through the development and practice of phlebotomy training program applied by
simulation-based medical education—

要旨

近年、医療に関する社会的要請と新しい教育理論や技法の観点から、臨床医学教育改革が必要とされ、学習の主題として、(1) 医療安全、(2) non-technical skills のトレーニング、(3) 技能的学習としてシミュレーションを応用した学習が注目されている。今回、シミュレーションを応用した「採血手技」のトレーニングプログラムの開発とその実施によって、上記3主題を統合した効率的な学習を目指し、その効果と問題点、今後の医学教育に求められる課題と発展的応用に関して明らかにすることを目的として本研究が行われた。

谷口氏は、新規採用研修医へのオリエンテーションの一環として11シナリオを含んだ統合的な採血シミュレーショントレーニングプログラムを開発し、43名に実施した。シミュレータを使用した採血手技、事例対応のロールプレイ、そこで撮影されたビデオによる振り返りを実施し、次に参加者同士による採血手技を行い、終了時に参加者に対し半構造化アンケート調査を実施し、その解析をした。さらに、研修開始6か月後に追跡アンケート調査を試みた。また、プログラムを開発した教員らにより、このシミュレーション学習の問題に関して意見を抽出した。

参加者は、この学習プログラムの有用性には総じて満足度が高かった。また、自身が患者役として採血の侵襲的手技を受ける事に関しては否定的では無く、むしろ患者体験の有用性を評価していた。6か月後の追跡調査では回答率が低く限定的ではあったが、学習プログラムの効果が認められた。しかしながら、採血手技の不安等、心理的な領域での効果は到達不十分であった。教員の意見としては、侵襲的な手技のトレーニングは、その有効性と限界、学習者が患者役として侵襲的な行為を受ける事に議論の余地がある事が指摘された。

以上から、臨床医学教育において、シミュレーション教育の有用性が明らかになった。今回の解析で、今後も求められる事項として、(1) プログラムをInstructional Designを意識し統合的にデザインする事、(2) 侵襲的な手技のトレーニングを実施する際にシミュレーションの限界を考慮し学習者のニーズ及び安全にも配慮する事、(3) 侵襲的な手技のトレーニングとして安全管理や患者への配慮の観点からnon-technical skillsのトレーニングを組込む必要がある事が明らかになり、シナリオの工夫を伴った更なるプログラム開発の向上が示唆された。

審査の過程では、1)シミュレーション教育の世界での導入状況、2)卒前教育への応用、3) non-technical skillsの教育の方法、4)このようなトレーニングで実際に患者への有害事象は減少しているのか、5)医療現場での教育におけるシミュレーションの認知度、6)シミュレーション教育の時期、プログラムの順序、7)シナリオ作成時の注意点、8)手技のビデオ撮影と振り返りの意義、9)使用したシミュレータの特徴、などについて質疑応答が行われ、申請者からは適切な回答と考察が述べられた。

本研究は、医療安全、non-technical skillsの修得を目指した採血シミュレーションプログラム開発を行い、その有用性と効果を明らかにしたもので、その発展性と可能性を示しており、学位の授与に値するものと評価した。

審査委員長 医療情報医学 担当教授

宇宿功市郎

審査結果

学位申請者名： 谷口 純一

分野名またはコース名： 総合診療科学

学位論文題名：

臨床医学教育における統合的トレーニングプログラムの有用性と課題
－シミュレーション医学教育を応用した採血トレーニングプログラム開発と実践を通して－
Effectiveness and problem of integrated training program in the clinical medical education
－through the development and practice of phlebotomy training program applied by
simulation-based medical education－

指導： 木川 和彦 前教授

判定結果：

可

不可

不可の場合：本学論文名での再審査

可

不可

平成 24 年 2 月 6 月

審査委員長 医療情報医学担当教授

宇宿 功市郎

審査委員 微生物学担当教授

赤池 孝章

審査委員 生命倫理学担当教授

浅井 篤

審査委員 呼吸器病態学担当教授

興 柁 博次